

ワークショップを観察する

オンラインでの会議やワークショップに参加、主催する機会が増えてきました。日本ファシリテーション協会（FAJ）の定例会でオンラインとオフラインでの会議の違いを改めて考える会に参加して見えてきたことがありました。

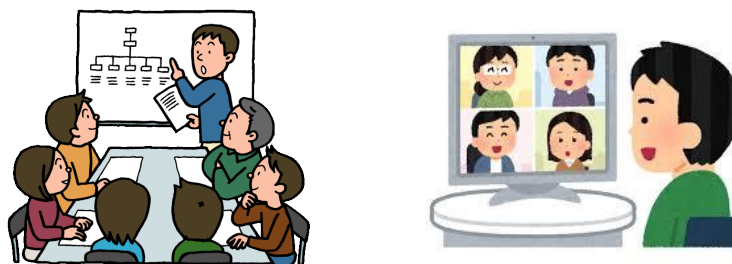
☆グループワークを観察する

グループの話し合いの様子を観察される側とともに、観察する側にもなるというワークがありました。

観察していると、話し合いの流れや参加者の感情などを伺い知ることができます。それをフィードバックしあうと、人によって、受け取り方の違いや場の読み方の違い、気になる箇所の違いなどが見えて、とても興味深いものです。これは、オンラインでもオフラインの場でも変わりません。

☆オンラインならではのこと

- ・ オンラインでは、複数の人が同時に発声すると一人の声しか拾ってくれません。同時に話されると、人によって聞こえるのが異なるそうです。同時に発言しないように心がけるのですが、ついつい話に入り込むと難しいですね。
- ・ その上で、オンラインの会議では、ファシリテーターが積極的に進行していかないとグループワークが進みにくいような気がしました。
- ・ 画面に向かって話をしているので、他の人が話そうとしていたり、ちょっと違うよというシグナルを出していても、その雰囲気を感じる事が難しいようで（この場合にどう介入するかがオンライン・ファシリテーターの腕の見せどころ）



☆オンラインでの話し合いをファシリテートする

オフラインでの課題がオンラインでは強調されるような気がしました。

例えば、「空気を読んで対応する」というファシリテーターのスキルがあります。オフラインで苦手な人には、オンラインではより難しくなります。

「困ったちゃん」はより「困ったちゃん」になっているように見えました。参加している側からすると、困ったちゃんはテレビに映るドラマかドキュメンタリーを見ているような気がして、傍観者になってしまいがちです。

空間や障害を越えて話し合うことができるオンラインの場は参加できる人が増えるのではと思います。そのためには、参加者含めファシリテーターも、「場数」を踏んでオンラインでの話し合いに慣れることがまずは大切なのだと思います。

*なんでも「場数=ばかさ」を積み重ねて、振り返り、自分のものにしていくか！だと痛感しました。